

地域医療を育てる会 情報紙 クローバー

CLOVER



発行表 NPO法人地域医療を育てる会
http://iryousodateru.com/
第44号 平成22年2月5日発行
東金市東金1142「東金の家」7
TEL:090-7634-7175



早分かり！医療センター計画の変遷

平成15年2月 千葉県より、千葉県立病院将来構想(案)が公表される

- ①がんセンター、救急医療センター、精神科医療センター、こども病院、千葉リハビリテーションセンター、循環器病センターを「総合医療センター」に統合
- ②県立東金病院、県立佐原病院、循環器病センター(一般医療部門)を近隣の公立病院等と「地域医療センター」に統合再編

平成15年度～ 山武地域医療センター(9市町村)

東金市、成東町、山武町、大網白里町、九十九里町、芝山町、松尾町、横芝町、蓮沼村

医療センター長に持たせる権限について、構成自治体長の合意が得られず、平成20年2月15日計画断念。

平成20年2月～ 1市2町医療センター(3市町)

東金市、大網白里町、九十九里町

医療センター関連予算を大網白里町議会が否決し、平成20年10月6日計画断念。

平成20年10月～1市1町医療センター(2市町)

東金市、九十九里町

平成20年10月24日 千葉県が約85億円の支援を含む試案提示
平成21年11月23日 東金市、九十九里町にて住民説明会
同年12月22日に病院開設許可申請を提出した。

昨年の十二月二十二日に、東金市、九十九里町が千葉県に対して医療センターの開設許可申請を行いました。名称は「東金九十九里地域医療センター」。最初の構想から実に六年の歳月がかかっています。私たちNPO法人地域医療を育てる会も今年の四月で満五歳。今月のクローバーでは、これまでの経緯をおさらいしてみました。

これまででここから医療をめぐる行政・住民の歩み

まずは簡単に、医療センターをめぐる行政の歩みをおさらいしましょう。

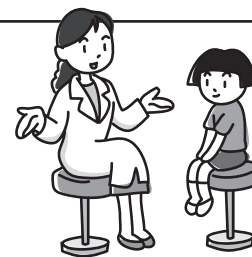
千葉県では県立病院の財政問題を発端として、病院経営のあり方について検討をしました。左の図は、そこからの経緯を簡単にまとめたものです。

ご覧のように、地域医療センターはこの六年の間にさまざまな動きがありました。構成市町はその間に九つから二つに激減しました。

私たち「地域医療を育てる会」が誕生するきっかけとなったのは、平成十七年の「山武地域医療センター構想シンポジウム」でした。当時、既に病院から医師が減り始め、住民も地域の医療に不安を感じていました。医療の現場で何が起きているのか、問題を解決するために、住民に出来る事はないか。そのような思いを抱いた市民が集まり、同年四月に会を立ち上げたのです。

以来、地域医療を育てる会は「住民と医療者、行政、福祉が同じテーブルで話し合うための機会を作ろう」と、活動をしてきました。最初は小さな懇談会からスタート、情報紙クローバーを発行したり、様々な集会を開催したりしてきました。その歩みを年表にしてみましたので、ご覧下さい。(裏面へ続く)

NPO法人地域医療を育てる会のあゆみ



山武地域医療センターの頃 (平成17年～平成20年2月)

- 平成17年4月 第1回定例会
- 6月 情報紙クローバー第1号発行
- 平成18年3月 地域の医療を考える対話集会「対話が、大事。」を開催。
当時の医療センター構想について住民と医療・行政の対話集会を行った。
- 平成19年4月 東金病院と共催で『レジデントのコミュニケーションスキル研修』開始
市民ボランティア「医師育成サポーター」による研修が全国の医療関係者・行政関係者に注目される。
- 7月 日本医学教育学会および医療マネジメント学会にて成果を発表
- 8月 夢と希望を創る地域医療プロジェクト(通称「夢プロ」)スタート。地域医療を学ぶための連続講座を6回開催し、延べ約400名以上の市民が集った。
- 11月 兵庫県丹波市の「県立柏原病院の小児科を守る会」と交流
この間に、クローバーを30号発行し、レジデント研修を9回開催した。
講演で7回、各地に出向いた(自治医科大学、東金商工会議所など)。

1市2町医療センターの頃 (平成20年2月～平成20年10月)

- 平成20年3月 東金病院にて医療メディエーター講習会開催
- 5月 他県の議員視察受け入れ開始
- 6月 東金病院の「巡回市民公開講座」に共催協力を始める
- 6月 TBSテレビ番組「みのもんたの「サタデーずばっと」で当会の活動が放送される
- 8月 東金病院を見学を訪れた医学生・研修医との懇談に参加
- 10月 絵本「くませんせいのSOS」販売開始 県立柏原病院の小児科を守る会との協働作品。
この間に、クローバーを5号発行し、レジデント研修を7回開催した。巡回市民公開講座を1回開催した。
講演で9回、各地に出向いた(岩手県藤沢町民病院、大網白里町山辺の郷など)。
1学会で発表した。

1市1町医療センターの頃 (平成20年10月～)

- 平成20年11月 医療の質・安全学会の「新しい医療のかたち賞」受賞
- 平成21年 4月 厚労相推薦による「メスキュード医療安全基金」をいただく
- 8月 医学生・研修医の研修「九十九里地域医療セミナー」に協力
- 12月 絵本「くませんせいのSOS」DVD販売開始

平成21年12月末現在で、この間にクローバーを8号発行し、レジデント研修を19回開催した。巡回市民公開講座を4回開催した。他県からの議員視察は9件(長崎県五島市、北海道斜里町など)。講演で37回、各地に出向いた(骨髄バンク医療講演会、慶應大学藤沢キャンパスなど)。



晴枝
(文責・藤本)

五年間の活動を通じて私たちが実感していることは、「自分達の健康を自分達で守ること」の大切さです。私たちがの地域は依然として医師不足が深刻な地域です。そのような地域に住む私たちは、日ごろから健康管理に気を配り、出来るだけ「健康寿命」を長くすることが大切です。「いざ」というとき、なかなか医療機関にかかれない」という不安を、健康増進や様々なネットワーク作りで安心に変えていきたいものです。

さらに、私たちが健康に留意することは、少ない人数で医療に当たっている医師や、看護師の負担を軽くするためにも大切なことです。

私たち「NPO法人地域医療を育てる会」は、これからも「情報発信」と「対話の場作り」を中心に、どうしたら私たちの地域が、健康で、安心して暮らせる地域になるかを考え、提案していきたくてと思っています。

■今回の記事に関してのご意見、ご感想、またご質問などございましたら、お手紙もしくはメールをお寄せ下さい。

<手紙の宛て先>
〒283-8588 千葉県東金市台方1229
千葉県立東金病院「地域医療連携室」内
NPO法人地域医療を育てる会
<メールアドレス>
info@iryousodateru.com

